

1 前回のグループワーク（概念図）のまとめ

成果目標

* 活動目標と成果目標のつながりが分かりにくい

活動目標

* 数値化は根拠が難しい * 各関係団体の具体的な行動目標も
* フレイルの認知度より、何のために何をすれば良いかを

概念図

* 高齢者にはわかりづらい * 分かりやすいスローガンを * フレイルの説明を
* 3つの柱（運動・栄養・社会参加）をクローズアップ * 何をしたいのかを明確に
* 市民自ら主体的にというキーワードが必要 * 若い世代からも重要なので4ピースに

市の体制

* 市内からフレイル予防 * フレイル予防推進室を設置 * 行政間(市内)の縦割りの解消(連動)

施策

総合

* 多岐にわたる事業の体系化 * 各団体・組織でできることを明示(互いの活動を理解する) * 慣習化の支援 * 推進委員会での施策認識の共有

啓発（フレイル概念・フレイルチェック）

* 分かりやすいパンフレットを配布 * 民間スポーツジムとの連携
* 定点調査（老人福祉センターも） * 各種行事への参画（知ってもらう、経験する機会を増やす） * 各事業に「フレイル予防」表示を

市民主体・地域展開支援

* 地区診断データの活用 * 自主グループへの働きかけ * やれることから活動する * 公募市民と地域組織の両輪でリーダー育成 * 地域ごとに仕掛ける
* 市の活動を軸として展開 * 地域を生かした活動（小さい輪から始める）

専門職の活用

* 食と運動のタイアップと見える化（体にあったメニュー提供、飲み物の選び方）

フレイル予防プログラム

* フレイルレベルに応じた活動プログラムを
* 活動につなげる仕組みづくり